【一太郎 2017 編】

"もの書き"のための機能を活用するマル秘テク

小説同人誌や電子書籍、ネット投稿小説、自分史などの執筆では、入力操作に手間取るこ となく、書くことに集中したいものです。一太郎 2017 では、「…」(三点リーダ)や「一」 (ダッシュ)などの約物を「……」「――」のように 2 つまとめてワンタッチで入力した り、小説に適した文書校正を行ったりと、"もの書き"に専念できる多数の機能が搭載さ れています。

●約物を1回の操作でまとめて2文字入力する

約物「…」(三点リーダ)、「一」(ダッシュ)、「~」(波線)を 2 文字ずつワンタッチで入 力するには、まず小説用の約物機能をファンクションキーなどに割り付けます。ここでは、 「……」を [F9] キーに割り付ける方法を例に紹介します。

※この機能は一太郎 2017 の新機能「一太郎オーダーメイド」の「かんたんオーダー」で 「もの書き」を選択すると、最初からファンクションキーに割付した状態で利用できます。 また、[ツールーオーダーメイド]を選択して、[こだわりオーダー]の[操作]タブで、 小説用のファンクションキーセットに切り替えることもできます。

1. [ツールー割付ーキー]を選択します。



 \downarrow

2. [キーの割付] ダイアログボックスが表示されます。右側の[一覧] で[標準機能] の[+] をクリックして展開し、[編集] の[+] をクリックします。

修飾キー(<u>K</u>) なし 🔽			-
割付先キ-(L) F1 標準機能 一大郎の小/2 ⁷ ▲ F2 標準機能 アシスト切替 F3 標準機能 北 ⁰ -の履歴から F4 標準機能 次入力ガイトジャ F5 標準機能 文書末方向へ格 F6 標準機能 文書末方向へ格 F6 標準機能 文書大方向へ F7 標準機能 範囲にユー F9 標準機能 文書スタイル F11 標準機能 コマント履歴パユー × ×	<< 割付(<u>C</u>) 解除(<u>D</u>)	 一覧(B) □ ○ 標準機能 □ ファイル・印刷 □ ○ ドキュメントナビ □ ○ 編集 □ □ 上書入力 □ □ ひうばし □ □ 取り消し □ □ 取り消し □ □ 取り消し 	M ^ >
キーの入力(N) F1 ファンウションキー表示文字列(E) ヘルフ [*]		割り付けられているキー	-
初期化(1) 一覧作成(S)	ОК	++>tell ^/l/7()	Ð

Ţ

3. [小説用三点リーダ]を選択し、[修飾キー]で[なし]が選択されていることを確認 し、左側の[割付先キー]で[F9]を選択します。



 \downarrow

4. [割付] をクリックし、[ファンクションキー表示文字列] を修正します。ここでは 「三点リーダ」に書き換えて、[OK] をクリックします。

+-の割付 修飾+-(L) 割付先+-(L) F1 標準機能 →太郎の∿ル7° ▲	× 一覧(R) M ≪割付(C) 下目 シートをクリップボード▲
F2<	
F9<標準機能小説用三点リー	 三点リーダ(…)を2文字挿入します。 文字は密着割付されます。 割り付けられているキー
772/ウションキー表示文字列(E) 「三点リーダ 初期化(D) 一覧作成(S)	F9 OK ++>tzl/

 \downarrow

 \downarrow

5. 三点リーダを入力したい位置にカーソルを置きます。

🔤 一太郎 - [文書1 *]	-	\Box \times
2) ファイル 編集 表示 挿入 書式 野根 ツール ウィンドウ ヘルプ アドイン JUST_PDF_3		- @ ×
🗅 🗳 · 📇 🔄 · 🛄 · 🐰 🗈 💼 🃁 🗢 👂 😥 · 🛃 😭 🐲	A 🏼 오	1
〒 25本 ▼ MS明朝(儒藩) ▽ 10.5(儒藩) ▽ B I U + ペ + 三 三 12		4
n 10 10 20 00 40 50 60 70	80 90	··· ^^ R
	-	
		0
		4
		A
		便
* w -		Eb.
		- 10 C
		c#
		20

6. [F9] キーを1回押すと、小説用の三点リーダ「……」が入力されます。

🗖 一太郎 - [文書1 1]		_		\times
1) ファイル 編集 表示 挿入 書式 新線 ツール ウィンドウ ヘルプ アドイン JUST_PDF_3			- 1	σ×
🗅 🗳 · 📇 🍙 · 📠 · 👗 🖒 💼 🦜 🗢 🖉 · 🦉 😰 🔅	≉ <mark>A</mark> ⊞			?
<u>= ジェ (MS朝朝(標準) いいの(標準) B I U・企・三 三 1</u> 25				4
▶ <u>10</u> 10 20 30 40 50 60 70			c ,	^ 5 3
				_
				*
				Ø
				4
0				A
				æ
				E
				-
				-
				C.P
				25

●小説用の設定で文書校正を行う

カギ括弧で括られた会話文の末尾に「。」(句点)は入れない、約物は偶数個入れる、「?」 や「!」の後ろは空白を入れるなど、小説には特有のルールがあります。小説に適した設 定で文書校正を行えます。





2. [文書校正の実行] ダイアログボックスが表示されます。[現在の校正設定] で [小説] を選択し、[実行] をクリックすると小説を書くのに適した校正が行われます。

[設定]をクリックすると、チェックの内容を確認できます。

ь ^г		10	10	20	80	40	50	60	70		^	58
- 88			42									a
Q	1		「もしかして	田中さんて	『すか?以前	6、同じ会社	に勤めてい	た鈴木で	¢_ ₪			あ
:=			勇気を出し	て、声をかけて	こみた。こん	な場所で、	知り合いに	:会うとは!	思ってもいな;	5-0		1
5			た。意外な場	所で、意外な人	しと会うもの	りだ。その鵥	そさは、相手	毛同じよ	うだった。 🗉			A
v								_				æ
				文書校正	の実行			×				Ð
					事業中の文書をチェ! エックする校正設定	ックして指摘個所をマ を選択してください。	ーク表示します。					Ŧ.
				現在の特	文正設定(L)							P
				사내보			~ 勝定	(S)				80
2	-				実	〒(E) キャン	セルートル	7(H)				~

3. 校正が終了しました。訂正を行う場合は [文書頭から訂正を開始] をクリックします。



 \downarrow

Ţ

4. 必要に応じて訂正を行いましょう。

🔁 一大郎 - [文音1 *]	- 🗆 X
2) ファイル 福島 表示 挿入 書式 新緑 ツール 9インドウ ヘルブ アドイン JUST_POF_3	- @ ×
🗋 🔓 · 📇 🛃 · 😹 · 👗 · 👗 💼 💼 🧇 🗭 🔎 🛃 🛃 🔮 🛛 🗠 🛤 🗛	1 👱 🚼 🕘
≕ 丝本 ▼ 校正	4
	· ×···································
位置 表記 権持 ◆ ◆ ひ む □ □ □ □	a
位置 指摘対象 形 「よ」ね」 アー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	*
▲ 1 パーラ~(1) 「夏2行 ? ■ 「「「「」」」」「「「」」」」」「「」」」」」「「」」」」」」」」」」	
- 一 一 一 一 一 一 一 一 かいし しかし。 こ へいふ切力 し、ル ウロマベに女 ごとはぶつ しひいない → 一 本付 いしにつ 一 本付 いしし 人きゃ かど マ か野 ないと 日本主 マロじ しきい よー	<u>२</u> व
た。息外は場所で、息外は人と気りものた。その厳さは、相手も同しよりたった。 🖻	A
W-	C#P
推续但所在連続に訂正 - 文書校正 ×	E)
対象 ? く前のマークへ(?) 法のマークへ(?) >	
	e de la companya de l
指揮理由 疑問符(?)または恋嘆符(!)の(#に空白がありません マークシリア(E)	20
短期時で(ア)または感嘆待く!>の6転ご室白がありません。確認・訂正し へ まとめてマーククリア(T)	- 5
二·	- ·
(法論(C) まとめて置換(的)。	_
· 候袖一覧(U) ?	_
ire 등 대 28.4.1_	
2. した (注意 (注)の (注)の (注)の (注)の (注)の (注)の (注)の (注)の	
	~
	*
C > C > D Sheet1 ◆ □ T 10 2/7 16年 1306 · □ - 0 · □ C	
▲ 文書校正の実行	

 \downarrow

5. 小説用の設定で校正が終了しました。文書校正は、ツールパレットの [校正] パレットからも行えます。

		-		\times
2) ファイル 編集 表示 挿入 書式 野緑 ツール ウィンドウ ヘルプ アドイン JUST_PDF_3			-	o ×
🗅 🗳 · 🏝 · 📾 · 🔈 · 🛣 🗈 💼 🧇 🗢 😥 · 🛃 😰 🛛 🐲 🗾	A III	<u>.</u>	-	?
<u>= 終本 ▼ MS期朝(標準) ▽10.5(標準) ▽ B I U * 於 * 三 三 14</u>				4
			9 <u>C</u>	^ 🔣
位置表記 種類 ↑ ◆ つ ○ □ □ □				
				in the second se
▲ 1ページ~(1) 「もしかして田中さんですか?」以前、同じ会社に勤めていた鈴木です」				あ
1頁2行 ? ■ 勇気を出して、声をかけてみた。こんな場所で、知り合いに会うとは思っても	いなかっ			4
た。意外な場所で、意外な人と会うものだ、その整きは、相手も同じようだった	e			. 4
	•			m
				r∰
				Eh
				-
				Ξ
			_	æ